

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」展 ～類まれなる日本のキリスト教文化の軌跡～



©宮本敏明



©宮本敏明



©宮本敏明

禁教期の潜伏キリシタンが信仰した「マリア観音像」などの関連資料も展示。来場者の中には、「弾圧の中、長い間信仰を守り続けた潜伏の時代があったことを知り、非常に感動している」との声もありました

来年の世界文化遺産登録を目指す「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」。キリスト教の伝来から繁栄、弾圧、潜伏、そして復活という450年以上の歴史を示す14の構成資産は、日本と西洋との交流で生まれた文化的伝統を物語っています。

「長崎の教会群」の価値を、ヨーロッパをはじめ世界各国の方により深く理解していただくため、10月20日から31日までフランスのパリ日本文化会館で展示会を開催しました。

期間中に行われたレセプションでは、中村知

事や関係区市町の首長などが各国のユネスコ大使や関係者などに対して、「長崎の教会群」の歴史的背景や構成資産の価値を説明。参加者からは「資産の価値と地元の方々の熱意がよくわかった。世界遺産に登録されるよう協力したい」という言葉を聞くことができました。

今後も国や関係自治体、資産所有者などとさらなる連携を図りながら、「長崎の教会群」の世界文化遺産登録実現に向けて全力で取り組んでいきます。

【世界文化遺産への道のり】

平成27年 9月26日～10月4日	イコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査
平成28年 5月ごろ	イコモスによる評価結果勧告
平成28年 7月	ユネスコ(国連教育科学文化機関)世界遺産委員会で登録の可否が決定

お問い合わせ／長崎県世界遺産登録推進課 TEL095-894-3171



レセプション出席者と交流する中村知事

長崎から世界遺産を

検索